

造形遊びって何？～結果より過程を大切に～

小学校図画工作には「造形遊び」という内容があります。造形遊びでは、作品を完成させるといった結果ではなく、考えながら作っていく過程が大切にされます。造形遊びではどんな力が育つのでしょうか。図画工作3・4下「つつんだアート」の実践から紹介します。

主体性～自分で考えて行動する～

「新聞紙で周りの物を包んで、様子を変えよう」と子どもたちに投げかけると、「壁一面を包みたい」「包んだものを組み合わせたい」など、どんどん子どもたちの発想が広がっていきました。

自分でやりたいことを見つけ、方法を考え、行動していく力を育てることができます。



裏側も包んでみよう！

協働性～友だちと力を合わせる～

どうしたらぴったりに包めるのか友だちに教えてもらったり、友だちと一緒に協力して包んだり、自然に力を合わせて活動している姿が見られました。

友だちと共に学び合い、高め合うことができます。

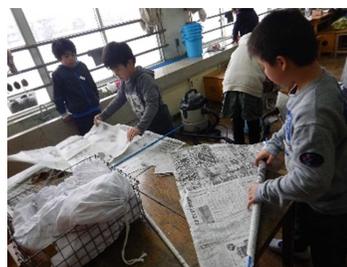


包んだ物を組み合わせると？

図画工作の基礎的な力

机の重なりから秘密基地を作ることを思いついたり、折る・やぶる・巻くなどの行為を組み合わせたりしていました。

材料や場所から発想する力、作り出す技能などの力を育てることができます。



どうしたらもっとうまく包めるかな？

11月17日(土)のオープンスクールでは全学年で造形遊びに取り組みます。造形遊びで大切なのは、つくる過程を大切に、子どもたちを見守ることです。子どもたちがどんなことを考え、どんな力を発揮しているのか、ぜひご覧ください。